

## 大学生の Wikipedia 利用に関する調査

大平 健司

本研究では大学生の情報探索行動において重要な位置を占める Wikipedia が学生に実際どのように利用されているか調査したものである。

Wikipedia を研究、または情報探索のために利用するにあたって、Wikipedia の情報の質は度々問題となり、Wikipedia の情報の質を調査する研究が行われている。しかし、Wikipedia をどのように利用しているのか、利用している人間がその情報を評価しているのか、評価の方法はなにか、また情報の質をいかにして判断しているのかについて日本で詳細に調査を行ったものは少ない。

Wikipedia だけでなく Wikipedia から引用している外部リンクをもとに情報探索行動を行うこと、Wikipedia が他の情報源と比較してある程度高い精度を持っているかもしれないこと、Wikipedia を使うことの問題性、研究、学問へ利用している研究者が多いことなどがこれまでの研究によって指摘されている。しかし、大学生がどのように感じており、いかにして評価、判断しているかを調査した研究は少ない。そこで本研究では大学生の Wikipedia を用いた情報探索行動を質問紙調査により検証した。

調査は 2012 年 10 月に筑波大学知識情報・図書館学類のプログラミング演習 I、知識情報演習 II の受講者 200 名を対象に行った。質問項目は海外の先行研究を参考にし、(1) Wikipedia 全体の利用について (2) Wikipedia の正確性について (3) Wikipedia の信頼性について (4) Wikipedia の有益性についての大項目 4 つについて聞いたものを、小項目 15 項目へ細分し、(i) 利用経歴 (ii) 利用頻度 (iii) 情報の質の認識・評価 (iv) Wikipedia を何故利用するのかの 4 項目について分析を行った。

調査の結果、

- ・利用経歴による差は見られないこと、
- ・利用頻度が Wikipedia を利用する目的、感情、過去の体験などといったものと相関しない
- ・学生は Wikipedia の情報の質を低いものと判断しておりあまり信用していない
- ・Wikipedia に貼られた外部リンクから情報探索行動を行う
- ・Wikipedia の外部リンクの情報を低く評価している
- ・Wikipedia で得た情報を他の情報源と比較し情報を確認すること、
- ・情報を深く調べるのではなく新しい情報を調べるために利用している
- ・学問・研究以外の領域での利用が多い
- ・何故 Wikipedia を使うのかは過去の経験、情報の有益性の影響を受けることが判明した。

以上のことから大学生の Wikipedia を利用した情報探索行動には Wikipedia の情報の質が影響しており、情報の質については Wikipedia の外部リンクが影響していることが考えられる。

(指導教員 逸村 裕)